

子供たちに危険が迫っている 不審者被害防止の決め手は地域の見守る目

子供をねらう不審者は絶対に許せません。
高砂・水元・天神町では学校、PTA、地域が
一体となって、子供を見守る目を増やそうと
パトロールを行い、子供の被害が減少して、
地域の結びつきも強まりました。子供を守る活動。
それは地域に住む一人ひとりができる範囲で
「おはよう」などと声かけすることから始まります。

安全で安心できる 地域(まち)づくりへ

自分たちの住む地域を見守る
目を増加させることは、子供だ
けではなく、高齢者や女性の被
害・空き巣・車上ねらいなどの
犯罪も未然に防止します。また、
子供を守る活動を通して、学校・
保護者・地域の人たちの連携が
深まり、安全で安心できる地域
づくりに結びついていきます。

東明地区

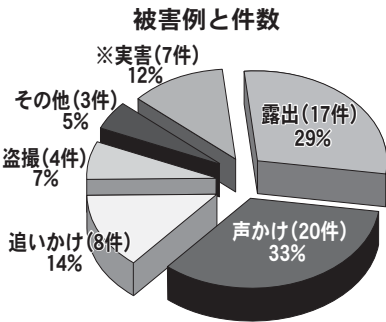
安全推進対策協議会の 子供を守る主な取り組み

①学校・PTAの取り組み

・不審電話・人物への対応、身
を守る方法などを学ぶ防犯教
室の開催

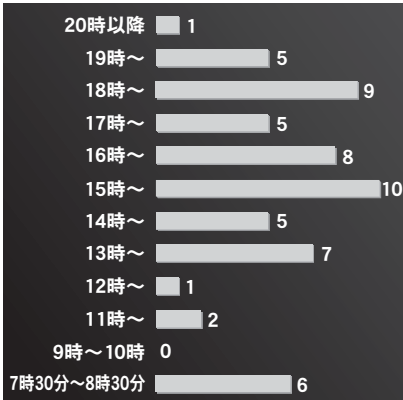


不審者が発生する 件数・時間・曜日(平成16年度)



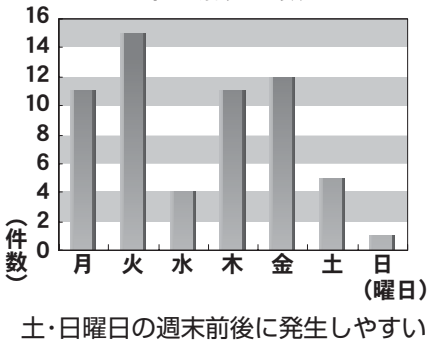
声かけや露出といった被害が多く、季節を問わず発生している。
※実害とは、直接体に触れられる被害

時間別発生数



登下校の時間や暗くなってからの時間に発生しやすい

曜日別発生数



地域のみんなで守る子供の安全

かつて地域が見守るなか、子供たちが安心して学び・遊べる安全な環境のもとで、学校に登下校する子供たちの笑顔が当然でした。

しかし、近年、児童誘拐事件や監禁事件などが全国的に多発。いつ、どこで、何が起きるか予測できないほど、子供を取り巻く環境は、大きく変化しています。

教育委員会では、平成10年から不審者から子供を守り、犯罪に巻き込まれないよう、地域をあげ、監視体制の強化を目的に、ひなん所「子どもを守る家」の設置や防犯ブザー配布などの取り組みを行っています。

しかし、このような子供の安全を守るネットワークの網の目をかいくぐり、不審者被害は増加。平成12年度35件か

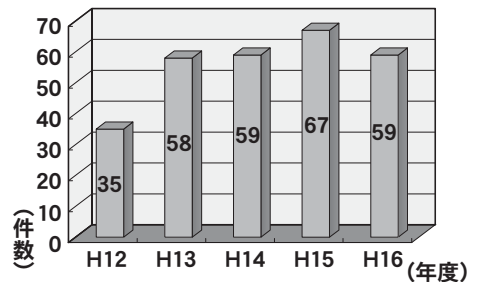
ら16年度59件と5年間で24件増加し、110人に1人が何らかの被害に遭う状況年々、力の弱い低学年児童が対象になつてきています。市や保護者、一部の地域の人たちが防犯対策を行っていますが、子供をねらう不審者は後を絶ちません。不審者の手口は「送ってあげる」などの声かけや体を触る、写真を撮るなど多種多様です。

そこで昨年7月、子供の被害が多い東明地区連合町会の加藤会長たちが立ち上がりました。東明地区(高砂・水元・天神町)の子供の安全を守り、不審者を追放しようと行動に移しました。東明地区安全推進対策協議会を設立し、町会、学校、PTAなど地域一体となった活動を行ったことにより、不審者による被害が激減しています。

東明地区 安全推進対策協議会とは

「安全で住みよいまちづくり条例」に基づき、市から安全推進地域の指定を受け、子供たちを不審者被害から守る運動母体として設立。東明地区連合町会、学校、PTAなど約55団体が参加しています。

室蘭市不審者被害数の推移(H12～H16)



②行政・町会の取り組み

・ボランティア協力員による通学路などのパトロール(平成17年5月現在 約500人)

・子供が暴力から自分を守るための教室の開催
・校区の巡回活動・交通安全指導
・集団下校訓練
・不審者マップの作成
・不審者被害発生ごとの警戒文書作成・配布



・強盗事件発生時の緊急パトロール
・啓発看板・のぼり旗の設置
・家用車への防犯啓発ステッカーの貼付
・市の車両によるパトロール活動
・ひなん所「子どもを守る家」設置(平成17年5月現在 409カ所)
・胆振石油協同組合「かけこみ110番」との連携

地域全体で安全・安心できる地域づくりを

東明地区安全推進対策協議会の皆さん
(加藤 徳治郎 会長)

協議会の主な取り組みは三つ。
一つめは子供を不審者から守る活動。登下校の時間に合わせてボランティアの協力員が午前と午後、そして部活動が終わる夜間の時間帯に黄色のジャンパーを着て、声をかけながらパトロールしています。

二つめは、青少年の健全育成活動。お祭りや夏・冬休み期間中に子供が夜遅くまで遊ばないよう地域を巡回。不審者から子供を守る

活動だけではなく、被害に遭わないための見回りも行っています。

三つめは、地域内に看板やのぼりを設置し啓発を行っています。

地道な活動ですが、地域の住民がジョギングや散歩の途中でも「不審者がいないか」という意識づくりにつながり、地域全体が一つになります。



初めはパトロールの協力員が集まるか不安でしたが、被害件数が減り、近所のつながりも強まるなど波及効果もありました。これからも市や警察と連携し、安全で安心できる地域づくりを目指します。



不審者から自分を守るための意識づくりに取り組んでいます。学校独自では、警察署の協力による防犯教室や、3・4年生を対象に不審者から自分を守るロールプレイ（現実に似せた場面で、ある役割を模擬的に演じること）や不審

者には近づかないための訓練を行っています。この訓練には、保護者も一緒に参加し、子供を守るために何ができるかを学んでいます。

校内での防犯対策は、学校職員手作りの不審者を取り押さえるための刺股きすまたを各階に設置したり、玄関に監視カメラを設置して、職員室から訪問者を確認しています。

また、児童の安全管理は学校だ

児童の安全に努めています

水元小学校 (中川原 悟 校長)

けでは目に届かない部分もあり、PTAや地域の人たちと連携して、放課後など、校外の巡回を強化しています。地域と学校が力を合わせ、児童の安全に努めます。



先が人間の胴回りほどのU字型になっている刺股を学校に配置



防犯ブザーを携帯し不審者から身を守る。

天 防犯ブザーや助けの音が聞こえたら
「丈夫！」と声をかけ、不審者や不審車両の特徴や

子供たちを地域のみんなで守ろう
難 しく考える必要はありません。
子供たちの登下校時間に合わせ、散歩やジョギング、犬の散歩を行い、子供たちへあいさつなどの声かけをすることから始めましょう。不審者に対して、常に「この地域にはだれかの目がある」ことを意識させることが、犯罪の防止につながります。子供のすきをねらう不審者は、地域のすきもねらいます。普段の生活から、すきのない地域をみんなで作ったり、子供を守っていきましょう。

親子の会話から 教える防犯意識

水元小学校PTAの皆さん
(佐藤 順子 広報委員長)

伝える。

④遠くまで遊びに行かない。

などを親子の会話を通して言い聞かせています。

パトロールや登下校時の声かけなどを通して、子供と地域の大人が顔見知りになり、助けを求めやすくなると思います。私たちPTAも親として、パトロールなどの活動を今後も地道に続けていきます。



幼い子供が事件に巻き込まれるというニュースを見るたびに、同じ保護者として、強いショックを受けます。事件に遭わないために、普段から子供には、

- ① 登下校時には、防犯ブザーを持ち歩く。
- ② 何かあったら、近所の家に逃げる。
- ③ 遊びに行く時は、居場所を親に

毎日のパトロールありがとう

東明中学校生徒会(森永 紗綾 会長)

地域の大人たちによるパトロールなどで、安全対策が強化されたから、「不審者に遭った」という友達の話などが減りました。地域の人たちのおかげで安心して学校に通えます。ありがとうの感謝の気持ちを込めて、パトロール中のおじさん、おばさんに「おはよう」、「こんにちは」と元気にあいさつしています。私たちも自分の身を守るために、明るい時間に家に帰る。防犯ブザーを必ず持ち、人通

りの少ないところは通らない。部活などでどうしても遅くなった時は、親に連絡

して、迎えに来てもらうことなどを守っています。

今、全国各地で起きている様々な不審者による事件は、自分たちの身の周りでも、起こる可能性がゼロではないから怖い。



自分が事件に遭うと親が悲しむし、友達が被害に遭うと自分も悲しい。だから、事件は絶対起こってほしくない。大変ですが、今後も私たちの安全を見守るため、パトロールなど頑張っしてほしいです。

110番 電話のかけ方のポイント

ナンバーを警察(110番)へ通報してください。また、不審者や不審車両を見かけたら、学校や教育委員会指導班(☎25059)へ連絡ください。



不審者情報メール配信中

市では、パソコンや携帯電話のメールに、不審者情報メールを配信しています。配信を希望する人は、市ホームページ(パソコン)…<http://www.city.nuroran.hokkaido.jp/main/org9000.html>、携帯電話…<http://www.city.nuroran.hokkaido.jp/im/>の「室蘭市小中学校不審者情報メール登録」から登録してください。